

～育ってほしい子どもの姿～「健康な体」と「豊かな心」

・丈夫な子 ・優しい子 ・意欲的な子 ・考える子

## ご卒園おめでとうございます

こんなに大きく成長した子どもたち。なんと誇らしげな姿でしょう。おむつを抱えて登園していた子どもたちが友だちと一緒に色々な経験をして、それぞれの小学校へ巣立っていきます。本当に元気にたくましく育ちました。

さて、卒園写真（左）にもあります、ステージの緞帳は、「縄手インテリア」様よりこの度、ご寄贈いただきました。ありがとうございます。縄手様は、砂山保育園第5期生の卒園児さんです。卒園児さんが子どもさんを連れてまた登園してくださることは、私たちもとてもうれしく40年以上この地域で共に子育てを見守ってこられたことに幸せを感じます。創設者・理事長 小林サツキ、副理事長 小林哲治、職員一同心から御礼申し上げます。ご寄贈ありがとうございました。



今年、年度初めから「子どもたちとどんな思いで保育をしているか」をお伝えするために、この園だよりで保育の一場面の写真と共にご紹介してきました。今年度の完結編として、「育ての心」をご紹介いたします。この詩を強く心に留めていただき、これからも共に子どもたちの育ちを見守っていきましょう。 園長 上村 初美

◆ 自ら育つものを育たせようとする心、それが育ての心である。世にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものとが、互いの結びつきに於て相楽んでいる心である。育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉大な力を信頼し、敬重して、その発達に遵うて発達を遂げしめようとする。役目でもなく、義務でもなく、誰の心にも動く真情である。しかも、この真情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。そこには抱く我が子の成長がある。日々に相触る子等の生活がある。斯うも自ら育とうとするものを前にして、育てずしてはいられなくなる心、それが親と教育者の最も貴い育ての心である。それにしても、育ての心は相手を育てられるばかりではない。それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親、子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どものためばかりではない。親と教育者とを育てる心である。 「育ての心」 (倉橋 惣三 著)



## お知らせ

### 3月の行事

- 3日(水) 誕生会・ひなまつり会
- 9～11日 西南女学院大学生 保育実習
- 12日(金) すみれ組を送る会
- 13日(土) 食育の日
- 8～13日 廃品回収週間
- 18日(木) わらべうた研修  
園内研修会
- 20日(土祝) 卒園式
- 25日(木) 避難訓練

\*スイミング\*

4(木)・8(月)・11(木)・15(月)・18(木)  
(2月の積雪による延期分があるため、5回あります)

◎3月20日(土祝) 卒園式についての詳細は、3月5日までにお知らせをいたします。今年 はきく組の在園児代表の参加はありません。

◎新年度に向けて  
在園のお子さんは、4月1日(水)は通常の保育の中で、職員と園児のみで進級式を行います。

入園式は、4月3日(土)に新入園のお子さんと保護者の方と職員で行います。

前月の意見・苦情・相談の報告  
意見0件 苦情0件 相談0件 でした。